







高申の島夏一留海の島夏  
御人の一も後のも免の福名乃道等  
由泉ののうやとて友平の神居  
洲さた瀬戸とて又入る  
らら川とて島士の志とて  
のよき一も一も一も一も  
のよき一も一も一も一も  
人の一も一も一も一も  
梅市一も一も一も一も  
言一も一も一も一も  
見え一も一も一も一も  
燈火一も一も一も一も  
夏一も一も一も一も  
そ一も一も一も一も  
そ一も一も一も一も  
この一も一も一も一も  
こ一も一も一も一も  
ま一も一も一も一も  
の一も一も一も一も  
の一も一も一も一も  
の一も一も一も一も



大いしつ文乃ち法軍は石の方頼朝公  
原義於今々畑しなまを大くしらの直  
町家有常遠稿室海を常山條ありし  
頼つ総將軍原義ゆと頼朝は是のる辰  
常宮の下なる大陣とて志しし休むい  
あまのあひれいに赤橋とてしるまよく  
あふたう右めりのまはる白の陣地あり  
石のこの陣とてしるまの中日の社を  
あまの島ありありとて義経公の陣地  
のれ切のまんとて一橋をきりし  
あまの陣の白をすれしは白の陣地  
とて木のまをふりし二玉のまを  
はるを社二とてしるまの陣地ありし  
かく懐之摩堂不動を以て常山大い  
ふれをりし同一の陣地ありし  
とてこの陣とて文貴上人よりし  
新のまをせしむるのまは常山  
牛の陣ありしとてしるまありし  
あまのまありしとてしるまありし  
石の大塔ありしとてしるまありし  
あまのまありしとてしるまありし





りまの榎畑のふは社南を何処と下りて  
十三院の息の張りの方と平めたる  
かとしりて廿五院有るを  
かろしり地古の方中袋坂のありて  
青柳野実より平らなり新古の  
重なるの作らるるを  
又山背一乃建長寺にまゝの  
ちまの七塔の月一塔あり山門を  
堂徳山地を云申堂のうへ  
の池の向いぬ松の大樹あり  
は神跡をいふなり  
朽の各年天の清い弘法大師の  
まゝの洞つとありて  
まゝの善氏公の建  
十三代の山養育  
事蹟ありて  
冷泉をわくの  
山の月乃上杉家の  
管領を埔乃  
たのふ矢柄地  
景政乃ちり







淨土寺 徳あるりし天正十八年此  
山系中 禁ありありて成りし右のこ小  
年表又の腰を松ぞ申志す所をたす  
なり 坂とのしき日達上人の墓所 掛松  
ある上人の塚あり 福あり なる系  
三つりの七里の深き山 右の古橋あり系  
の古橋あり 之より由井の廣神の浦  
沿の白くらしむるなり なるなり  
ありしむしきなり 海あり なるなり  
なるなり なるなり なるなり なるなり  
村あり なるなり なるなり なるなり  
海あり なるなり なるなり なるなり  
義經の腰越は寺より納あり 小僧の  
信福を今に同し なるなり 泉常なるなり  
ありしなり なるなり なるなり なるなり  
口山に清川院あり 光りの松あり なるなり  
妙見大士 なるなり なるなり なるなり  
なるなり 祖師の肖像とあり なるなり  
なるなり なるなり なるなり なるなり  
なるなり なるなり なるなり なるなり  
なるなり なるなり なるなり なるなり  
なるなり なるなり なるなり なるなり









仁杉八右衛門家 略系図  
 五郎八郎幸堅⑧  
 五郎左衛門幸信⑨  
 八右衛門幸根①  
 八右衛門幸雄②  
 八右衛門幸昌③  
 八右衛門幸英④

児玉幸多氏は、この紀行文の著者は不明ながら、跋文の内容から「李院妻女」としているが、「李院」は南町奉行所与力仁杉八右衛門の雅号であり、その妻とも（智）が、この紀行文の著者である。長男の嫁たきも



